

作り手の意図をとらえてニュースを読み解こう

構成

1. 概要
2. 単元計画
3. 本時のための準備
4. 本時の流れ
5. メディアリテラシー育成のためのポイント
6. 授業レポート
7. 先生の一言 ～授業を終えて～
8. 私もやってみました！
9. 監修者の一言

1. 概要

実施校	東京学芸大学附属小金井小学校
実践者	三浦尚介 教諭
教科	小学6年生 国語科
単元	ニュースを読み解こう「ニュースを比べよう」
メディアリテラシーに関わる部分の授業時間数	90分(45分×2)

2. 単元計画

1 時間目	<p>(1)「熊が出没」したという架空の事件の第一報から、どんなことを連想するか話し合う</p> <p>(2)事件について詳しく知るためには、どんな方法があるか話し合う</p> <p>(3)事件の関係者である山下正さんと山下清子さんのインタビュー原稿を読み、2人の伝えたいことや人物像を考える</p> <p>(4)インタビューを元に正さんと清子さんの伝えようとしていたことについてワークシートにまとめる</p> <p>(5)正さんと清子さんが伝えなかったことを発表する</p>	本時 1
2 時間目	<p>(1)前時の学習を振り返る</p> <p>(2)3つのニュース番組を視聴し、受けた印象や感想を話し合う</p> <p>(3)それぞれの番組で山下正さんと山下清子さんが言っていることや、受けた印象についてまとめる</p> <p>(4)なぜ番組によって言っていることが違うのか、どの番組が今回の事件にふさわしいと思うか、自分の考えを伝え合う</p> <p>(5)感想や考えたことについて話し合う</p>	本時 2

3. 本時のための準備



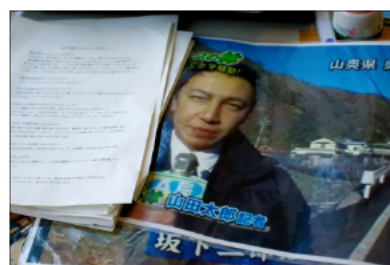
映像教材

総務省メディアリテラシー教材「親子で語ろう！テレビの見方」
…2時間目の2で3つのテレビ局のニュース映像を視聴する



テキスト教材

- (1) 事件の関係者・山下正さんのインタビューを再現したプリント（別紙1）
- (2) 事件の関係者・山下清子さんのインタビューを再現したプリント（別紙2）
- (3) 3つのテレビ局のニュースの内容を文字で起こしたプリント（別紙3）



その他

- (1) ワークシート（別紙4）
 - (a) インタビューの中で正さんと清子さんが伝えなかったこと
…ワークシートの(1)欄の上2段に、インタビューの内容（全文）から2人が伝えなかったことを書く
 - (b) 3つのテレビ局のニュース番組が伝えなかったこと
…ワークシートの(1)欄の3段目に、各テレビ局のニュースの内容から、正さんと清子さんの言っていたこと（インタビューのどの部分が使われていたか）、各番組が伝えなかったことを書かせる
 - (c) 3つのテレビ局のニュース番組の中で一番よいと思ったもの、それをよいと思った理由
…別紙4の(2)欄
 - (d) 授業の感想
…別紙4の(3)欄
- (2) キーシーン掛図
映像教材は視聴するだけでなく、テレビ局のニュースごとに、以下の場面をプリントアウトして提示するとよい
 - (a) 取材をする記者
 - (b) 事件の関係者
 - (c) 特徴的なシーン

4. 本時の流れ

●本時 1

本時の目標

教科指導

- ・事件関係者のインタビューの内容から、事件の詳細や彼らの伝えたいことを読み取り、それに対する自分の考えを持つことができる。
- ・自分と友達の考えを比べながら話し合うことができる。

メディア

- ・取材の進め方について知る。

1. 事件の第一報から連想したことを話し合う (5分)

…想像は憶測に過ぎないということを知る

2. 事件について詳しく知る方法を話し合う (10分)

…取材によって信頼できる情報を収集しなければならないことを理解する

3. 事件の関係者のインタビューを読む (10分)

…相手の伝えたいことや人物像を考えながら読む

4. 事件の関係者が伝えなかったことをまとめる (5分)

…相手の伝えなかったことを自分なりに考えてまとめる

5. 事件の関係者が伝えなかったことを発表する (15分)

…事件の関係者の伝えたいことや人物像をとらえる



授業の山場は
10ページ

教科指導

教科指導の観点

メディア

メディアリテラシー教育の観点

●本時 2

本時の目標

教科指導

・自分と友達の考えを比べながら話し合うことができる。

メディア

- ・ニュース番組の読み解きを通して、発信者によって情報の切り取り方が違うことに気づき、「情報には制作者の意図が込められており、その意図を効果的に伝えるために編集されている」というメディアの特徴を理解する。
- ・上記のメディアの特徴を理解し、作り手の意図をとらえながら自分自身の考えで情報を判断する力を身につける。

1. 前時の学習を振り返る (5分)

2. 3つのニュース番組を視聴して印象を伝え合う (20分)

…番組によって伝えていることや受ける印象が異なることに気づく

3. 3つのニュース番組を比較して考える (5分)

…各番組で伝えていることが違うのはなぜか、どの番組の伝え方がふさわしいと思うか、考えを伝え合う

4. 3つのニュース番組が伝えたかったことをまとめる (3分)

…自分の考えに最も近い番組はどれかを明らかにする

5. 感想や考えたことについて話し合う (12分)

…ニュース番組は制作者の意図によって作られているということを理解する

授業の山場は
12ページ



5. メディアリテラシー育成のためのポイント

ポイント メディアの特徴を効果的に理解させる

映像教材「親子で語ろう！テレビの見方」には3つのテレビ局のニュース番組が納められています。いずれも、ある1つの事件を、同一人物のインタビューをもとに報道しているにもかかわらず、各テレビ局の意図に沿って編集されることで、それぞれのニュースから受ける印象は大きく異なります。この事実を児童に認識させ、驚きを与えることで、「情報は作り手の意図によって編集され、変化している」というメディアの特徴を効果的に理解させることができます。

ポイント 主体的に情報を判断する力を育てる

子どもたちが日常的に目にし、情報源として信頼しているテレビのニュースを読み解くことで、「情報は作り手の加工品であり、その意図によって変化していること」「ニュースは実際の事象の限られた側面しか伝えていない場合があること」を実感させ、作り手の意図をとらえながら自分で考えて情報を判断する力を育てます。

6. 授業レポート

●本時 1

1. 事件の第一報から連想したことを話し合う (5分)

— 映像教材「親子で語ろう！テレビの見方」に出てくるテレビ局のニュースからプリントアウトした熊の画像を提示し、「熊出没事件」と板書。

このニュースから、どんなことを連想しますか。

「見た目はかわいいけど、実際は襲われそうで怖い」「怖がる人がいるから射殺される」「パニックになって事件が大きくなる」「体は大きいし、声を出すと怖い」



— 児童の発言を板書。

「熊出没事件」という言葉と写真だけで、いろいろなことを想像したね。

●指導教諭のポイントアドバイス

メディア

自由に想像させたあと、それらの想像には確証がなく、憶測に過ぎないということを認識させましょう。

2. 事件について詳しく知る方法を話し合う (10分)

— 「詳しく知りたい」と板書。

この熊出没事件について詳しく知りたいと思ったとき、みんなはどうしますか。

「インターネットで検索して動画やニュースを見る」
「動物図鑑で熊の性質などを調べる」「そのニュースがテレビで放送されていたら、テレビ局に電話をして、もっと詳しく聞く」「実際に熊に遭遇した人に話を聞く」



今、言ってくれた実際に事件に遭遇した人に話を聞くことは、「インタビュー」だね。

— 児童の発言を板書。映像教材に登場する3人の記者の画像を掲示。

では、自分がニュースの記者だったら、どうするかを考えてみましょう。ニュースの記者は何をする人ですか。

「取材をする人」



— 児童の発言を板書。

そうだね。では、さっきあげた方法は取材と言えるかな？ インターネットで調べてニュースを作り、テレビで放送したとしたら、どうでしょう。

「インターネットで調べた情報は正確とは限らないから、他の資料も調べて共通した情報を得た方がよい」「現場に行って実際に熊に遭遇した人に話を聞いたりしないと、正確な情報は得られない」

インターネットで調べるだけではダメなんだね。図鑑で調べるのはどうですか。

「ダメだと思います」

では、そのニュースを放送していたテレビ局に電話をして、詳しく話を聞けば大丈夫かな。

「真似しているから悪質」「他のテレビ局が放送したあとに同じことを紹介しているのでは、情報として遅すぎる」

それなら、この記者の人たちは、どうすればいいと思いますか。

「現場を見に行く」「話を聞きに行く」

— 児童の発言を先ほど書いた「取材」の下に板書。

現場に行ってみたり聞いたりしないと、取材とは言えないということだね。

● 指導教諭のポイントアドバイス

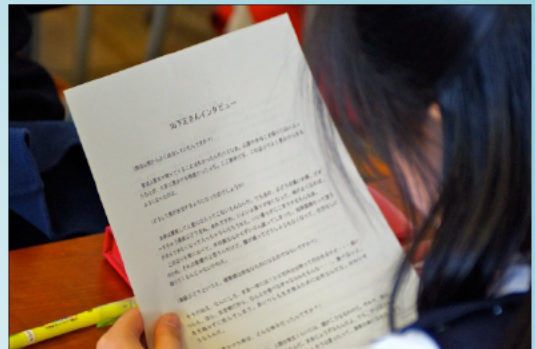
メディア

これまでの経験を元に取材の方法について考えさせることを通して、人に何かを伝える際にはメディアを活用するだけでなく、自ら信頼できる情報を収集しなければならないということを理解させましょう。

3. 事件の関係者のインタビューを読む (10分)

— 「山奥県奥山村」と板書。学習2で提示した3人の記者の画像に加えて、事件の関係者である山下正さんと山下清子さんの画像を提示。2人のインタビュー全文を文字で起こしたプリントを各児童に配布する。

熊出没事件について調べるために、3つのテレビ局の記者が山奥県奥山村へ取材に行き、ぶどう農家の山下正さんと山下清子さんにインタビューをしました。まずは2人のインタビューの内容に目を通してください。



— 児童がインタビューのプリントを黙読する。

自分が記者だったら、みんなは正さんと清子さんに何を聞きますか。

「被害」「気持ち」

そこから2人の人柄や伝えたかったことが想像できるよね。では、今あげた点を意識して声色なども考えながら、インタビューを再現してみよう。先生が記者になって質問をしますので、誰か正さんになって答えてください。



— 正さん役の児童を指名してロールプレイをする。

正さんの伝えたかったことや人柄が、何となくわかったかな。同じように人柄や伝えたいことを考えながら、清子さんのインタビューを聞いてみましょう。

— 正さんと同様に清子さんのインタビューを実演する。

● 指導教諭のポイントアドバイス

メディア

- ・熊の出没について正さんと清子さんがどのような思いを抱き、何を伝えようとしていたのかを自分なりに考えながら読むようにうながしましょう。
- ・インタビューの内容を黙読したあとに、正さんと清子さんの人物像や人柄に合った声色などを意識しながら、全員で音読させてもよいでしょう。
- ・何人かの児童に正さんと清子さんの役割を割り振り、インタビューのもようを実演させ、2人の人物像をとらえさせましょう。

4. 事件の関係者が伝えたかったことをまとめる (5分)

ー ワークシートを配布。

山下正さんと山下清子さんがインタビューで伝えたかったことを、ワークシートに書き出してください。

ー 児童がワークシートを記入。教師は机間を巡回して指導する。



5. 事件の関係者が伝えたかったことを発表する（15分）

山下正さんは、インタビューで何を一番伝えたかったのでしょうか。

「数年前まで熊が人里まで降りてくることはなかった」「昔に比べて熊の食べる木の実が減ったため、仕方なしに降りてきた」「ぶどうをとっていきから迷惑だけど、地球温暖化で木の実がなくなったのは人間のせいだから、熊も苦労しているかわいそうだ」

正さんの人柄についてはどう思いましたか。

「ぶどうを100万円分くらい持っていかれているのに、熊も生き物だし仕方がないと考えていて、心が広い」「相手の立場に立ち、その気持ちをふまえてものが言える人だと思う」

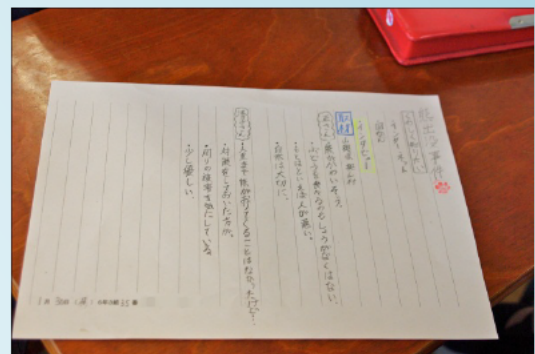
一 児童の発言を板書。

正さんの伝えたかったことや人柄が見えてきたね。清子さんについてはどうでしょうか。

「熊は怖いけれど、自分でできることをしているから大丈夫だと言っている」「恐怖心はあるけど、熊を嫌っている感じではない。怖いけど仕方がないという感じ」「近所の被害のことも気にしている」「保険のことも心配している」「それほど熊を怖がっていない」「熊が出てきて腰を抜かして、それっきり外には出られないと言っている」

一 児童の発言を板書。

では、今日はこれで終わります。



●指導教諭のポイントアドバイス

メディア

- ・2人がインタビューで話した内容の中で一番伝えたかったことは何かを考えさせましょう。
- ・2時間目に視聴するニュース映像と子どもたちの出会いを大切にするために、正さんと清子さんの伝えたいことや人物像をしっかりと押さえておきましょう。

●本時 2

1. 前時の学習を振り返る (5分)

ー 山下正さんと山下清子さんの画像を提示。

前の授業では、山下正さんと山下清子さんのインタビューを元に、2人の人柄や伝えたかったことを考えました。もう一度インタビューを読んで、前回考えたことを確認しましょう。



ー 正さんのインタビューを全員で音読。

正さんはどんな人だと思いましたか。

「優しい」「心が広い」「自然や生き物を大切にしている」

ー 児童の発言を板書。

では、同じように清子さんのインタビューを読んでみましょう。



ー 清子さんのインタビューを全員で音読。

清子さんはどんな人で、何を伝えたかったのでしょうか。

「自分のことだけでなく近所の人のことにも気にしている」「保険の話をしている」

ー 児童の発言を板書。

2. 3つのニュース番組を視聴して印象を伝え合う（20分）

— 3人の記者の画像を提示。各テレビ局のニュースの内容を文字で起こしたプリントを配布する。

この3人の記者は山下正さんと山下清子さんにインタビューして、それを元にテレビのニュース番組を作りました。そのニュース映像を見てみましょう。

— 映像教材「親子で語ろう！テレビの見方」から、Aテレビ「ニュースの林」の映像を視聴。



正さんのインタビューはどうでしたか。

「熊が怖いということを前提に作られている気がする」「いろいろな部分がカットされて、正さんの意見に偏りが出ている」「このニュースでは熊を悪く言っている部分しか映っていないので、受ける印象がずいぶん違う」「人柄が変わったように感じる」

— 児童の発言を板書。ワークシートを配布する。



今見たAテレビの「ニュースの林」の他に、Bテレビ「ハイパーニュース」、Cテレビ「ニュースプラス」の映像があります。この3つのニュースの中で、正さんと清子さんが何を話しているか、番組は何を伝えたいのか、ワークシートの（1）に簡単にまとめながら見てみましょう。

— 3つのテレビ局のニュース映像を視聴。



Aテレビの「ニュースの林」は何を伝えていましたか。

「熊を危険なものとして扱っている」「正さんと清子さんの伝えたかったことや人柄が伝わってこなかった」「お金の被害のことを言っていた」

— 児童の発言を板書。

Bテレビの「ハイパーニュース」はどうでしたか。

「熊のことをよく知っている人に話を聞いていた」

そうだね。熊の専門家は何を言っていましたか。



「熊は異常気象のせいで山から降りてくるようになったのではないかと言っていた」「熊が出没する理由や熊の生態について話していた」

— 児童の発言を板書。

Cテレビの「ニュースプラス」を見たとき、みんな「怖い」「ワードショーみたい」と言っていたよね。それはどうして？

「音や見出しが怖かった」「死傷者の数が出ていたから」

清子さんのインタビューのところで「怖くて外に出られない」という字幕が出ていましたが、清子さんはこんなことを言っていたかな？

「腰を抜かしたという、外に出られなくなった理由がインタビューからカットされていた」

このニュースは何を伝えたかったのだと思いますか。

「清子さんの『熊は怖い』という気持ちや正さんの『熊も生き物だから』という言葉、動物愛護団体が射殺に反対していることをなど流して、両方の意見を伝えている」

— 児童の発言を板書。

● 指導教諭のポイントアドバイス

メディア

- ・正さんと清子さんのインタビューを元に3つのニュース番組が作られたことを伝えましょう。
- ・正さんと清子さんが伝えようとしていたことと、ニュースの内容を比較して考えさせ、番組によって2人の言っていることや受ける印象が異なることに気づかせましょう。

教科指導

- ・3つのニュース番組の原稿を配布してからDVDを見せ、しっかりと内容を読み取らせましょう。

3. 3つのニュース番組を比較して考える (5分)

3つのニュースの中で一番よいと思う番組、放送するのにふさわしいと思う番組はどれでしょうか。Aテレビの「ニュースの林」がよいと思う人、手を挙げてください。

— 手を挙げたのは先生のみ。

このニュースをよいと思わないのは、どうして？

「お金の話をされていて、いやらしいから」

では、Bテレビ「ハイパーニュース」がよかったと思う人は？

— 19人の児童が挙手。

このニュースの何がよかったと思いますか。

「熊を一方向的に責めるのではなく、異常気象が原因で熊が山から降りてきているという専門家の意見も流して、人間にも責任があると伝えていること」

Cテレビ「ニュースプラス」がよいと思った人。

— 12人の児童が挙手。

よかったところを教えてください。

「最初に熊の足跡を見せることで熊が出没したということが実感できるし、熊によってケガをした人の数も字幕で出していたので、わかりやすかった」

「熊を怖がっている人、熊も生き物だし仕方がないと考えている人の両方の意見を流して、住民にもいろいろな意見があることを伝えているから」

確かに、公平に伝えている感じがしますね。



● 指導教諭のポイントアドバイス

メディア

- ・ニュースの原稿やインタビューの内容のプリントを手がかりに、どの番組が自分の考えに近いかを明らかにし、話し合いを活性化させましょう。
- ・番組によってニュースの内容が異なるのはなぜなのか、テレビ局や記者の立場に立って考えるようにうながしましょう。

4. 3つのニュース番組が伝えたかったことをまとめる（3分）

ワークシートの（2）に、自分がよいと思ったニュース番組と、なぜそう思ったかという理由を簡単にまとめてください。

— 児童がワークシートを記入。



5. 感想や考えたことについて話し合う (12分)

DVDを見る前に、3つのニュース番組の中で自分が一番よいと思うものを発表してもらいましたが、友達の意見を聞いて考えが変わった人もいるようなので、最後にもう一度みんなの意見を確認したいと思います。その前に、ワークシートに友達はどんなことを書いたのか見て回しましょう。

— 児童が友達のワークシートを見て回る。

では聞きます。Aテレビの「ニュースの林」がよいという人、手を挙げてください。

— 先生だけが手を挙げる(学習3から変化なし)。

Bテレビの「ハイパーニュース」がよいと思う人。

— 16人の児童が挙手(19人→16人に減少)。

Cテレビの「ニュースプラス」がよいと思う人。

— 15人の児童が挙手(12人→15人に増加)。

あいかわらず「ニュースの林」は人気がないね。このニュースは放送してはいけないと思いますか。

「放送してはいけないとまでは思わないけど、3つの中では一番よくないと思う」

「正さんや清子さんの人柄が伝わってこないし、熊による被害ばかりを伝えているので、熊が山から降りてくる理由なども伝えた方がよいと思った」

「私たちはインタビューの全文を読んで2人の優しい人柄を知っているから、熊を責める部分だけが流されていることをダメだと感じるけれど、このニュースを初めて見た人は熊が悪いという意見に賛成してしまうかもしれないので、よくないと思う」

— 児童の発言を板書。

こういう風にニュースのインタビューで内容がカットされるのは、実はよくあることなんですが、それはなぜだと思いますか。

「尺があるから」「強調したいことがあるから」

— 児童の発言を板書。



この3つのニュース番組は、それぞれ強調したいことが異なるために内容に違いがあります。なぜ番組ごとに強調したいことが違うのかというと、同じ出来事でも注目するポイントや誰の立場に立って伝えようとしているかが違うからです。「ニュースの林」の記者が熊による農作物の被害について伝えたのは、農家の人の立場に立って考えたからだと言います。では、「ハイパーニュース」の記者は誰のことを考えてニュースを作ったんだと思いますか。

「熊のこと」

熊の他に地球の環境についても考えていたよね。では、「ニュースプラス」はどうでしょうか。

「社会」

そうだね。地元の人や動物愛護団体など、社会に存在するいろいろな人のことを考えて伝えていました。このように、3つのニュース番組はそれぞれの立場に立って伝えているだけですから、どれも悪くはありません。ただ、ニュース番組には制作者がいて、その人たちの伝えたいことに沿って番組が作られているということは覚えておいてください。

先生は以前、ニュース番組の取材を受けて、正さんや清子さんと同じような体験をしたことがあります。先生と生徒30人が新型インフルエンザの防止についてインタビューを受けたんですが、実際に使われたのは先生と2人の生徒のコメントだけで、内容もかなりカットされていました。これは、ニュース番組が作り手の意図によって作られているからこそ起こることで、悪いことではないんです。

では、これで授業を終わります。ワークシートに感想を書いて、あとで提出してください。

● 指導教諭のポイントアドバイス

メディア

- ・実際のニュース番組でも自分の伝えなかったことと放送された内容が異なってしまう場合があることを、体験談や事例を交えて理解させましょう。小学校の学習の中で児童がインタビュー活動を行ったことがある場合は、その経験を思い出させるとよいでしょう。
- ・児童がニュース番組をすべて批判的に見ることをないように、「作り手に悪意があるわけではなく、それぞれの観点や立場に従って伝えている」ということを認識させましょう。

子どもたちと映像教材との 出会いを重視した授業構成で メディアの特徴を実感させる

今 日の授業の子どもたちの様子はどうでしたか。

◆受け身にならず、自ら考えて積極的に発言していた
子どもたちにとって身近なニュース番組が題材だったので、興味を持って取り組んでいたと思います。「考えさせられている」という受け身の姿勢ではなく、自分たちで考えて積極的に発言をしていましたね。

授 業で工夫されたことは何ですか。

◆ニュース映像と子どもたちとの出会いを重視
一番工夫をしたのは、本時のメイン教材である3つのニュース映像の見せ方です。あえて2時間目の後半に見せることで、1時間目で学習したインタビューの内容とニュースから受ける印象の違いに子どもたちが驚きを感じられるように、教材との出会いを大切にしました。そこは意図通りに行ったと思います。

◆ニュース映像は一度練習として見せ、学習の道筋を示す
3つのニュース映像については、視聴の仕方にも気を配りました。1回見ただけでは子どもたちが何をすればよいのかわからないと思ったので、まずAテレビのニュース映像を見せて自由に意見を出させ、ワークシートに何を書けばいいかという見通しを立ててから、改めて3つのニュース映像を見せるようにしました。

◆ワークシートは口答で指示をして書かせる
ワークシートには授業の流れや設問を細かく記載しておくのが一般的ですが、今回はあえてそれをせず、口答で指示をして書かせるという形式をとりました。授業の先を読ませないことで子どもたちの興味を持続し、ニュース映像から受ける印象も強まったと思います。ただ、児童によって反応は異なるので、指示を入れるか、最小限に抑えるかは、個々の先生の判断でよいと思います。



三浦尚介 教諭

(東京学芸大学附属小金井小学校)



も

っと時間をかけて授業ができる場合、どんなことを実施すればよいですか。

◆ニュース番組視聴後の話し合いに時間をかける

2時間目の学習2で3つのニュース番組を視聴して印象を伝え合うところに、もっと時間をかけるとよいでしょう。本時ではBテレビのニュースとCテレビのニュースに指示が分かれたので、議論をうながせば、さらに盛り上がったと思います。また、演出やインタビューのカットの仕方などに話を広げてもおもしろいですね。例えば、Cテレビのニュースを見たときに子どもたちから「怖い」という反応がありましたが、そこでさらに掘り下げて発言させれば「煽っている」とか「こういう伝え方でいいの?」といった意見も出てきたのではないかと思います。



◆体験型の授業や、他のメディアに関連づけた授業へと発展させる

本時のあとに授業を続けても、いろいろな広がりがあると思います。実際にインタビューの編集をさせたり、演出をさせたりして、体験型の授業に発展させてもよいですし、インターネット上の嘘の書き込みを真に受けてしまう子どもが多いので、本時の学習をインターネットというメディアに関連づけていくのもよいですね。本時で作り手の立場を知ることによって情報の真偽を見分ける力も育成できると思いますから、その流れでインターネットの情報がどのように成り立っているのかという領域に踏み込んでいくと、子どもたちにも実感をともなった伝え方ができるのではないかと思います。



こ

の授業を実施してよかったですか。よかった点について教えてください。

◆誰もができるわけではない体験を、子どもたちが追体験できた

自分の言ったことがメディアによって違った風に伝えられるという体験は、実際にインタビューを受けた人間でないといけない部分もありますよね。その必ずしも誰もができるわけではない体験を、今回の授業で子どもたちが追体験できたことは、すごくよかったですね。子どもたちのテレビの見方も、かなり変わったのではないかと思います。

8. 私もやってみました！

映像教材の活用で メディアとの接し方を 効果的に理解させる

- これまでメディアリテラシー教育に
— どのようなイメージをお持ちでしたか？

◆必要性は感じていたが、具体的な指導法がわからなかった
授業で何か調べさせると、インターネットで1つのサイトをあたっただけで調べた気になってしまう児童が多いので、子どもたちには自分で考えて情報を精査できる力を身につけさせたいと思っていました。そのためにはメディアリテラシー教育が必要だと感じていましたが、どのように教えればいいのかつかめない部分があったので、今回トライできてよかったです。



小田典生 教諭

(東京都小平市立
上宿小学校)

授業を始める前に不安なことはありましたか？

◆教師もメディアリテラシーを学ぶことが必要
こちらの勉強不足であいまいな授業になってしまうことが不安だったので、新聞の読み比べやニュース番組を意識して見るなどの事前準備は行いました。実際に授業をしてみて、教師である私自身もさらにメディアリテラシーを学び、しっかりと身につけていくことが必要だと、改めて感じました。



今日の授業の子どもたちの様子はどうでしたか。

◆身乗り出すように意欲的に取り組んでいた
映像教材を使用したことで、身乗り出すように意欲的に取り組んでいました。DVDを見る際も、騒ぎすぎたり、逆に冷めた反応をしたりすることもなく、集中してよかったです。



もっと時間をかけて授業ができる場合、どんなことを実施したいですか。

◆ニュース番組の比較に時間をかける
3つのニュース番組を比較させるところに時間をかけて、もっと掘り下げて考えさせ、しっかりと話し合いをさせたいですね。「なぜ番組によって言っていることが違うのか」という発問に「同じじゃつまらないから」と答えていた児童がいたので、発信側が独自性を出すためにいろいろな演出を行っているという点にも触れてみたいです。

◆体験授業を行ったり、発信者のモラルについても考えさせたりしてみたい

3つのテレビ局に子どもたちをグループ分けして、架空の事件を元にニュース番組を作らせるといった体験授業もやってみたいですね。番組のターゲットや放送時間帯まで考えさせたらおもしろいと思います。また、やらせニュースの事例をいくつかあげて「視聴者を得たい」「魅力的なニュースを伝えたい」といった発信側の意識が過剰に働きすぎると、こういう事態を招く危険性もあるということや、ツイッターやブログといったネットメディアでの発信者のモラルについても考えさせたいですね。

- れからメディアリテラシー教育を始める先生方へ
- メッセージをお願いします。

◆メディアリテラシーを育成するための具体的な手だてが得られた

この授業にトライできてよかった、という率直な感想を伝えたいですね。メディアとの接し方について子どもたちに伝えたいことがあっても、それを具体的に働きかける手だてがないことにジレンマを感じていましたが、この機会をいただいたことで、映像教材などを活用して効果的に指導していくことの必要性とともに手応えも感じることができ、実りが多かったと思います。

●ここを工夫しました！

●本時 1

1. 事件の第一報から連想したことを話し合う (5分)

2. 事件について詳しく知る方法を話し合う (3分)

3. 事件の関係者のインタビューを読む (10分)

…音読の時間を縮小して発表やビデオ視聴の時間を確保
5と6の学習に時間をかけたかったので、インタビューの全文は読ませず、ニュース番組で採用されている部分だけを音読させました。

4. 事件の関係者が伝えたかったことをまとめる (5分)

…ワークシートは児童が書きやすい構成に
3つのニュース番組で採用されている事件関係者のインタビュー原稿とワークシート(別紙5)を1枚にまとめ、それぞれのインタビューの内容の下に事件関係者が伝えたいことを男性・女性・共通点別に書く欄を設けました。

5. 事件の関係者が伝えたかったことを発表する (15分)

…発表の前に班ごとに話し合わせる
発表の前に、4の学習でワークシートにまとめたことを班ごとに話し合わせて児童の意見を引き出しました。
…ワークシートを拡大してホワイトボードに提示
板書の時間を極力省いて授業のテンポをよくするために、拡大したワークシートをホワイトボードに提示し、そこに短い言葉で子どもたちの発言を書き込むようにしました。



…ニュース番組の視聴ポイントを認識させる
インタビュー原稿にある6人の事件関係者のコメントが2人の男女のものだけだということを種あかしし、「同じインタビューでも番組によって切り取り方が違う」という点を意識してニュース番組を視聴するようにながしました。



6. 3つのニュース番組を視聴する (7分)

…ニュース映像を1時間目に視聴
指導案では2時間目に視聴することになっているニュース映像を1時間目に見せました。2時間目の学習2ではニュース番組の感想や印象についての話し合いだけを行い、ニュース番組の比較に時間をかけられるようにしました。



●本時2

1. 前時の学習を振り返る (2分)

2. 3つのニュース番組の感想や印象を伝え合う (7分)



3. 3つのニュース番組が伝えなかったことをまとめる (8分)

…指導案から3と4の学習の順番を入れ替える
学習4で3つのニュース番組を比較する前に、それぞれのニュースが伝えたいことをワークシート(別紙6)にまとめさせ、児童の意見を引き出しました。



4. 3つのニュース番組を比較して考える (15分)

…ニュース番組のターゲットを意識させる
ニュース番組にはターゲットとする視聴者層があり、それに合わせて効果音や字幕が選ばれているということを指導案にプラスして伝え、3つのニュース番組の違いをより明確に理解させるようにしました。



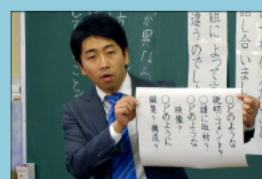
5. 感想や考えたことについて話し合う (13分)

…単元のまとめをわかりやすく提示

「(発信者)が異なると(情報)の切り取り方が違う。(自分自身)の考えで情報を判断していくことが大切」という文章のカッコ内に入る語句を考えさせ、この単元における学習のポイントをわかりやすく認識させました。

…宿題を与えてニュースの見方を養う

「家でテレビを見るときにニュースを比べてみよう」という宿題を出し、どのような説明やコメントがされているか、誰に取材しているか、どのような映像が使われているか、どのように編集・構成されているか、という点に意識しながらニュースを見るようにながしました。



「メディアリテラシーよくわかるはてな期」での本実践の意義

メディア

昭和女子大学 初等教育学科
駒谷真美 准教授

本実践の対象は、児童期後期に属する小学校高学年です。メディアリテラシーの発達段階では、よくわかるはてな期（基礎的理解深化・疑念萌芽期）に該当します*。主たる特徴として、マジックウィンドウから、アダルトディスカウント（主体的かつ批判的な読み解きが可能になる。大人のように思考し始め、メディアの世界についてより懐疑的になる）への移行期に当たります。CMの誇張表現をほぼ見抜けます。番組の登場人物の因果関係を理解し、空想と現実の区別が可能で、理由説明もできるようになります。番組に登場する前後の場面を結びつけて、登場人物の動機・行動・結果の間に関連性を導き出せるようになります。アニメやドラマに台本が存在する番組の現実性は理解しています。一方、ドラマの登場人物や登場する環境の現実の存在、CMの真実性を信じている児童もまだいます。

これらの特徴を踏まえたメディアリテラシー教育としての到達目標として、「①オーディエンス（視聴者）に影響を与えているメディアの作り手が、疑わしい方略を用いることもある可能性を見抜くことができる ②テキスト（メディア作品）制作に携わる様々なメディアの作り手のタイプを識別でき、彼らの仕事内容を説明できる ③メディア作品を分析し評価でき、熟慮した見解を示すことができる ④多様なメディア作品を作ることができる」ことが挙げられます**、***。

本実践では、単元『ニュースを読み解こう「ニュースを比べよう」』と教材「親子で語ろう！テレビの見方」（3つのテレビ局のニュース映像の視聴と比較）の活用が、よくわかるはてな期の児童のメディアリテラシーを助長する相乗効果をもたらしています。3つの局は、同じ「熊が出没した事件」を取り上げていますが、伝えたニュースは、送り手の意図により内容が異なっていたことについて、メディアの特性を丁寧に見取り見抜き（①）、3つのニュース制作の意図を探ることから送り手の視点を鑑み（②）、ニュース番組を批判的に分析していました（③）。本実践から、よくわかるはてな期の児童のメディアリテラシーは、「メディアは構成されている」というメディアリテラシーの基本概念的な理解を経て、アダルトディスカウントへ発展すると考えられます。

* 駒谷真美.(2012).『わくわくメディア探検 子どものメディアリテラシー～メディアと楽しく上手につきあうコツ～』. 東京：同文書院.

** Ontario Media Literacy. (2006). Retrieved March, 15, 2006, from <http://www.angelfire.com/ms/MediaLiteracy/>.

*** Ontario Ministry of Education. (2006). Retrieved March, 15, 2006, from <http://www.edu.gov.on.ca/eng/document/policy/achievement/charts1to12.pdf>.

東京学芸大学 人文社会科学系
日本語・日本文学研究講座 国語科教育学分野
中村和弘 准教授

近年、説明文の授業では、何が書かれているかを読み取るのと同時に、どう書かれているかに注目して文章を読む活動が行われています。筆者は、なぜこのような文章構成にしたか、なぜこの表現を用いたのかなど、読者の視点から検証しながら読む活動です。

こうした背景には、説明文といえどもその文章が「客観的」であることはなく、「筆者の意図に基づき、編集され、再構成された世界である」という理解が、小学校の国語科の授業でも広く受け入れられつつある状況があります。

この活動では、インタビューがそれぞれの意図のもとに編集され再構成されることで、視聴者にまったく印象の異なるメッセージを届けるということを、実にわかりやすく扱っています。こうした活動は、内容を正しく読み取りながらも、内容の向こう側にある「筆者の意図と仕掛け」を読み解こうとする、国語科の学習の原体験として貴重なものです。